

## 第9回「県政ひざづめ談議」概要

- 開催日時：平成19年8月30日 14：30～
- 開催場所：丹波山村 交流促進センター

### 〔司会〕

皆様大変お待たせいたしました。

ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行役を務めさせていただきます、県の広聴広報課、田中です。

よろしく申し上げます。

それでは、初めに横内知事からごあいさつを申し上げます。

### 〔横内県知事〕

皆さんこんにちは。山梨県知事の横内でございます。

丹波山村、小菅村には私はもう何度となくお伺いをしているわけではありますが、2月17日に知事に就任してからは初めてでございます。

よろしく願いいたします。

皆様方はこの丹波山村、そして小菅村でそれぞれ色々な地域づくりのグループをお作りになって活動をしておられる皆さん方だと聞いております。

こういう源流の環境は素晴らしいわけではありますが、過疎の村でありまして、色んなご苦勞も多いことだというふうに思いますが、そういうご苦勞を克服しながら、この地域の活性化のために大変にご努力をなさっているというふうに聞いておりまして、心から敬意を表したいと思います。

今日はそういう皆さん方と、『源流における地域づくり』ということで、色々と皆さん方の日ごろのご苦勞や、また県政に対する要望というようなことも聞かせていただきたいというふうに思っております。

ご要望をいただきましても、県の方もご多分にもれず大変な財政難なものでございますから、皆さん方のご要望の何分の一かしかできないのかもしれませんが、しかしそうはいつでも皆さん方がこんなことを考えながら、この丹波山村、小菅村で一生懸命努力しているということはいつもこの頭に入れながら、県政を進めていきたいと思っておりますので、どうか本音のところざっくばらんにお話をいただければありがたいと思います。

### 〔司会〕

ここで本日出席しております県と村からの担当職員をご紹介します。

まず、県の森林環境部で森林計画や造林事業などを担当しております岩下森林整備課長です。

県の観光部で観光宣伝や都市農村交流などを担当しております堀内観光振興課長です。

農政部で特産品の開発支援、農村の振興などを担当しております猗股農村振興課長で

す。

丹波山村から坂本総務観光課長さんです。

小菅村から船木総務課長さんです。

本日は丹波山村と小菅村で源流をキーワードに地域づくりを積極的に推進されている皆様方と、『源流における地域づくり』をテーマに意見交換を行います。

多摩川源流というこの地域の特性を活用した都市住民との交流、それから特産品作り、森林整備や自然景観の保全などの観点から、地域づくりについて参加者全員で話し合いを進めていきたいと思っております。

本日はいただいた皆様のお考え、それからご意見は今後の県政の参考とさせていただきます。

それではご発言をお願いいたします。

### [参加者]

丹波山村観光協会の副会長をしております。

現在、丹波山村この全域で、鹿の食害の被害が大分進んでいます。

この上に村で整備した遊歩道があるんですが、そういう道にも落石があったり、また山梨百選にも選ばれている三条谷という所の登山道なども、やはり鹿の食害で壊されたり崩落したり、そういうところが結構いたるところに目立つようになってきたんですね。

あと、森林の森の方では樹皮を剥いて立ち枯れが多くなったりとか、そういうふうなことがよく目立つようになってきました。

また、この辺ではわさびを栽培している所も結構ありますが、そういうわさびの葉っぱを食べてしまう、そういう被害もあります。

こういうふうな丹波山村の、まあ小菅村もそうですけど、大自然を親しむために訪れた観光客の安全のためにも早急な対処をお願いしたいと思えます。

それとあと昨年、村でバイオトイレを作っていたんですが、そういう環境に配慮したトイレは利用者も関心があり、使って快適ですし、環境に負荷も少ないトイレですから、そういう方向のトイレ整備などもお願いしたいと思えます。

### [知事]

そうですね。

特に鹿の食害というのは全県的に大きい問題になって、2、3年前まではむしろ農作物に対する被害ということで、猿とか猪とかということ言われていたんですが、やっぱり林業に対する被害、おっしゃったようにそれによって、山が荒れることによる崩落被害というようなことがあって、例えばこの隣の甲州市で三窪高原のドウダンツツジとか、ああいうものがほとんどだめになっちゃった、何とかしてくれないかという陳情を、この間もいただきました。

甲州市の市長さんとか、こちらからも副村長さんとか、多摩源流研究所の皆さんがおいでになりまして良く聞かせていただきました。

おっしゃったことは、もちろん捕獲頭数を増やすということもありますけれども、同時

に東京都、埼玉県と一緒にやらないと、向こうでワーとやるとこっちに追い込んでくる、またこっちでやるとまた向こうへなんていうことをやっていたらだめだから、一緒にやらないとということを強調しておられまして、全くその通りだと思いますね。

捕獲頭数は今年は70頭でしたっけ。

〔森林整備課長〕

丹波山村と小菅村で昨年19頭捕っております。

そして今年は現在70頭を予定しております。

保護管理計画ということで頭数調整、要するに間引くという調整を全県的に進めておりまして、それで丹波山村、小菅村は今申し上げたように70頭ぐらいをやると。

その他、狩猟で捕る分もありますから、これよりもずっと多い数の調整が進むじゃないかと思えます。

〔知事〕

東京都と一緒に相談して。

〔森林整備課長〕

東京都との関連につきましては、知事が説明したとおり、9月12日に奥多摩町、東京都、それから丹波山村、それから猟友会の関係等も含めまして、関係者で今年の共同捕獲に向けて話し合いを進めていくということで準備をしておりますので、順次作業は進んでおります。

〔参加者〕

ちょっと標高の高い所になると国立公園内にも入りますけれども、そういう所でもある程度捕れるような、ある程度頭数を減らせるようなことも考えていただければありがたいと思えます。

〔森林整備課長〕

そうする方向で準備しております。

〔参加者〕

直売所の話を知事さんをお願いしたいということで今日は来ました。

うちも猟をやっている、大体年間70頭ぐらい捕獲するんですが、それでもとても被害が拡大しております。

直売所も皆さん年齢的に80歳～85歳の方がやっているんですが、猪、猿、あるいは鹿にみんなやられて、特に猿はかぼちゃとかとうもろこしとか、そういうものも絶対見逃さないであらかた食べてしまう、こんな状況でありながら直売所へ年間どのぐらい出すかという、私は統計を持ってきたんですが、今会員が49名おります。

そして平成12年度～19年の8月までで大体1億2千万ぐらい野菜とか、そういうも

のを売っています。

それで全体の乾物類とかそういうものを含めると、その12年～19年までで2億7千万円です。これだけの売り上げをあの直売所で成績を残しております。

ただ、この丹波山村あたりの寒い土地柄では、12月～3月の冬は出すものがないんですね。

うちの方ではビニールハウスが一つもないんです。

そういうものがありますと、3ヶ月ぐらいはほうれん草、野良坊あるいは冬菜とか、そういうものが出せるんだと思います。

それで知事さんにお願いしたいんですが、できたらビニールハウスに助成してもらいたいというような意向を、直売所の方々が持っていますので、どうか良い制度がありましたらよろしくをお願いします。

**[知事]**

課長、どうですか。

**[農村振興課長]**

私も「旬のやまなし」という県単事業ですが、5割補助でそういったものに利用していただいております。

たまたまこの近辺ですと、上野原市で今年もまたおやりになるようですけれども、是非、農務事務所、役場を通じまして要望を出していただければ、県費あるいは国費での対応は可能だと思います。

**[参加者]**

よろしくをお願いします。

**[知事]**

これは生産組合を作ってやるということですか。

**[農村振興課長]**

そうです。生産組合、3人以上の組合であれば対応は可能でございます。

**[参加者]**

小菅村でゆうゆうクラブの方の事務局をしています。

この、ゆうゆうクラブの目的は生きがいと、元気を出そうということですが、特に私どもの考えていることは、高齢者が多い多いと言うんですが、高齢者の力を発揮できる環境づくり、こういったものに力を貸してほしいなと思っています。

どのようなことができるかと言いますと、岩下課長さんが着けている木材のネームプレートですが、地域では間伐材を使って非常に力を入れています。

それから地域の特産というようなことで、これは昔で言えばかんな屑ですが、それをス

ライスして帯状にしてから、それから私どもの村で竹細工を作る技術を持っているんです。

その技術を使っていくと非常に面白い形ができるんです。

私どもはこれは実用品という形でなくて、物を作るとか、創造する喜び、こういったものを子供たちに与えたい。

また、そういうことで観光になるんじゃないかな、こんなようなことで始めているわけですが、いずれにしてもやっていることは個人的あるいはグループのことですから、そんなに大したことはできないんですが、特にリタイアした人たちの力が発揮できる、そういうものがあるといいなと、考えております。

是非そういった意味で老人パワーも捨てたもんじゃないんだなと、そのようなことをお願いしたいなと思っています。

#### [知事]

いいことですが、県としてそういうお客さんを探すとか、なかなか難しいですが、何かPRの場があるかどうかですね。

#### [観光振興課長]

なかなかこういう単品だけを、例えば東京で見せるとか何とかというわけにはいかないんだらうなと思うんですが、ただ、小菅村、丹波山村もお湯に来ているお客さんが非常に多いですから、お湯に来ている人に宣伝するというのも一つあるんだというふうに思います。

あとは日本橋に「富士の国やまなし館」というインフォメーションセンターがありまして、そこへ皆さんが行って展示して、1日とか2日、東京の皆さんに見せるということもできるようなスペースがありますので、是非ともそちらを使っていただければというふうに思います。

#### [参加者]

私がそちらのザルなどをほとんど編んでいるんです。竹と木と両方を編んでおります。本当に知事さん売れないんでございます。(笑い)

#### [知事]

これは幾らぐらいなんですか。こういうザルなんかいいですね。

うどんを盛るにはいいじゃないですか。

これは幾らぐらいで。

#### [参加者]

はい、1,800円。

[知事]

なるほど1, 800円ね。

[参加者]

手間が掛かっております。

[知事]

手間が掛かっていますからね、そうですか。

こういうものだから、わざわざ東京まで持って行って出す必要もないわけで、小菅の湯の他に、どこか甲府辺りで何かそういう場があればいいですね。

甲府にはないですかね、売る場所は。

[観光振興課長]

甲府・国中地域地場産業振興センターとか、そういう所が使える可能性があるかなというふうに思います。

[知事]

甲府・国中地域地場産業振興センターね。地場産業振興センターというのも、うん・・

[参加者]

是非心にとめておいて下さい。

[知事]

東京日本橋の「富士の国やまなし館」に展示場所みたいなものがありますから、小菅村で一日借りてもらって、あれは予約すればただですか？

[観光振興課長]

ただではないんですが、非常に低価で。

[知事]

安いです。

色々こういうものを置いて、そうすればかなり賑やかな所ですから東京の人が見に来てということがありますがけれどもね。

しかしわざわざ東京まで出ていくのもね、旅費が掛かるし、どこかこういうものを展示して売れる場所があればいいですね、甲府辺りにでもね。

色々な手作り製品を販売する場所ですね。

[司会]

県の広報誌でもここだけというわけにもいかないかもしれませんが、そういう特集が組めればやりたいと思います。

ただ、それは県内向けですから、あまり・・・、他に向けるという発信にはなりません。

### [参加者]

丹波山村の環境美化推進協議会の会長をやっています。本業は建設業です。

今の話の関連でちょっと考えるんですが、こういうものがあって、じゃあどこのお客さんに売り込むかとか、丹波山村も小菅村も温泉があって、じゃあどこからのお客さんをメインにするのかとか、やっぱり東京に目が向くわけですね、我々源流、上流その下流はやっぱり東京都の方へいくわけですね。

人の流れがその逆のほうが今現状で一番多いと思うんですが、山梨県と、もちろん我々丹波山なども黒川金山の流れや、色んな流れがあって、武田信玄なども地元なので愛着があるので山梨県という意識はあるんですが、やっぱり経済的にも文化的にもどうしても繋がりが薄くなりがちなんです。

それが観光という面でもやっぱり山梨県内で「丹波山村ってどこ？」という話がどこにいても出てしまうとか、「ああ知ってる小菅村でしょう」みたいな両方がごっちゃになったりとか、ただそういうことを考えるともっと大きな交流が山梨県とか首都圏、丹波山村、小菅村というこの辺の地域という、そういう流れができないかなというも思うんですね。

それでそれはもちろん地元の色んなアピールの仕方、我々努力しなければいけない部分もあるでしょうけれども、やっぱり山梨で以前からも県が指導する観光のアピールとかありますけれども、やっぱりどうしても富士山とか八ヶ岳方面の高原ですとか、そういう感じになってどうしても抜け落ちちゃう部分で、それは致し方ない部分もあると思うんですが、逆にここは今、山本勘助のドラマをやっていますけども、やっぱり武田信玄で向こうに来るんだったら、その逆に大菩薩を回ってこっちを回って帰るとか、大月へ出るとか、ここを通るルートみたいなものをもっとアピールしてもらったり、またそのための色んな整備がされるといいかなというふうにも思うわけですね。

そういう中で、やっぱり県内との結び付きもできていくということが、これから重要なんじゃないかと私は思うんです。

もう一つ、さっきの鹿の食害の話、東京都が水源林としてこの辺一体をかなり持っていて、東京都は財政規模も違いますし、鹿対策で森とか木自体を囲ってしまい、鹿が食べられないようにしてしまうということで、去年、一昨年かなりの額の予算を割いた仕事をしていました。ただ、そういう頭数を減らすというのもやっぱり限界があるような気もしますし、さっきの具体的に食害が出て道が通りづらいとか、崩れているとか、そういった面を逆にメンテナンスをしていくほうも大事なんじゃないかと思えます。

それで今建設工事は減っているんですけども、その建設工事というんじゃないくて、その森林の整備というような形での道の整備ですとか、道というのは山道ですよ、人が歩く道の整備ですとか、そういったあまりかっちりした土木工事みたいな感じじゃなくて、色んな作業的にもう少しできることがあるんじゃないかと思うんですよ。

そういう面では今地元の我々同業者もかなり困窮しているんですが、元々村の人たちも色んな技術も持っていますし、街場の建設で働いている人に比べれば、先ほど木材の関係

の技術を持っていたりという、そういうものを含め、かなりのことができると思うんですよ。

ただ今のような工事の形でシステムチックになってきちゃっている、そういう発注の形態だと規模的にも追いつけなかったりという面があるので、もう少しそういう枠組みから別に色んな森林整備とか、山村の環境整備ということが出来るんじゃないかな常々思っているんで、そういった面も考えていただければ非常にいいんじゃないかなと思います。

#### [知事]

なるほどね。

観光ルートで帰りにこっちを回るような観光ルートを作るとか、そういうことは確かにあり得ると思うんですね。

何を売り出していくかということはあるんですけども、それは村を通じて提案をしてくれば、結局は観光業者が観光ルートというのは企画するわけですから、観光業者に我々の方も提案をしていくことになるわけですね。

また観光業者がそのお客さんに合うものを作っていくということになりますから、そういう観光ルートの提案というのは村の方からあれば、それは観光業者の方に提示してPRをしていくようにしたいと思いますね。

特に秋の紅葉の時期とか、そういう時期などは非常にいいんじゃないかなという気はしますよね。

この小菅の湯とか、のめこい湯とか、その辺に入って帰るとか、そういうのは一つあり得ると思いますよ。

それから、森林整備というのも最近では地球温暖化対策で大変に重要視されてきてましてね、予算もそれなりに付くようになってきました。

そういう中で、今幾らぐらいですかね、森林整備というと、2億円ぐらいでしたかね。

もう少しありますか。

また、企業の森づくりということがあって、企業もそういうことに関心を持って森づくりに力を入れるようになってきましたし、段々大きな流れの方向としては、大型の公共事業というようなものにそういう環境対策としての森林づくりみたいな方向になっていくだろうと思います。

それは考えていきたいと思いますね、そういう方向にはね。

厳しい予算の中ですが、充実をしていかなければいけないというふうに思います。

#### [参加者]

小菅村の花と緑の郷づくりの会の代表をしています。

県の方に色々お願いをして、もみじ等の苗木も貰ったりしてやっています。

また東京都の狛江市とは色々地域協定を結びまして、苗木等を貰ってあじさいを去年1000本植えて、大分大きく育てています。

という活動をしながら、また堤防に客土を少し盛りまして、それに芝桜等を植えて、構造物そのものはそのままにしておきまして、表面だけ覆いをしていって、それがもう大分繁殖しまして、来年の春はかなり見れるんじゃないか、そういうふうに緑化活動をしてい



ます。

それからもみじ等をかなり植えまして、将来もみじ街道というものを目指してやりたい。

それにはやはり苗木の方も県の方をお願いをして、ある程度応援をしていただきたい、そんなことを感じています。

それともう一つは、7月、8月に植栽した所の草を刈るんですが、丹波山村でもそうでしょうが、観光立村ということで小菅村でも、草、木が大きくなって道路の方に出ている部分まで草を刈っています。

けれども、ボランティアと、あと少ない予算でやっていますのでなかなか思うように刈れないんですが、その辺の支援を是非お願いして、観光で大型バス等が入っても当たらないようにきれいにする所はきれいにして、やっぱり山の緑化は緑化できれいにしてゆきたい、そういうふうに思います。

それから小菅村では企業の森が入って、丹波山村も入っていますけど、さっき言われるように鹿の食害防止で覆いをしている所があるんですが、その覆いが一生できるわけじゃない。

3年、5年で取らなければならない。

その時点でまた鹿に食われちゃうと何にもならないので、是非とも鹿の対策は山梨県だけでなく、各県と協力して、全滅ではなくて被害の出ない程度に調節してもらいたいというふうによろしくお願いします。

#### [知事]

分かりました。

そうやって花を村の色々な所に植える運動をしておられるというのは大変に素晴らしいことだと思いました。

苗木の補助だとか、あるいは草刈りの補助とかということになるわけですか。これはそういうのはあるんですか。

#### [森林整備課長]

山の植林の関係ですと、全部そういう補助があるんですが、環境整備的なものでは・・・

#### [知事]

やるとすると村がやる補助のような感じがしますね。

#### [参加者]

県の方で、国道、県道を6月頃刈っている。

良くないのは7月、8月なんですよ。その頃観光客も多いんですよ。

だからそういう時に部分的にでも刈って、見た目を明るくしてもらいたい。

#### [参加者]

県道はそういうことはないんですよ。

問題は林道だとか村道に入りますと、もうガードレールから1メートルは草が出て覆ってしまっているんです。

そういう状態で、観光客はそこを歩いて行きますからね。

村の方ではもう知事さんがご存知のように財政力がありませんよ。

それで、本当に無償でボランティアでやっている方たちもいるんです。

だからそういうことを考えますと、今言ったことを村の方へ紐付きでも何でもいいから、これを使ってもよろしいというような形でいただければなと思いますね。

#### [知事]

そうですね、そうですね、なるほどね。

#### [森林整備課長]

今の林道の草刈りの件ですが、県下県営林道、市町村林道がたくさんありまして、なかなかですね、元々山の管理、手入れのための道というのが林道というものの一番の目的なものですから、そうは言っても観光客の方が大勢来られるというようなことで、県で道を選択しながらやるということで、残念ながら今のところ全部が全部やりきれないというのが実情でございまして、その辺のところはまた、ここは富士・東部の県の関係事務所、管轄になりますから、林道につきましてはまたその辺に話をさせていただければできる部分があるかもしれません。

#### [参加者]

私、環境美化推進の副会長をしていますけれども、観光キャンペーンもやっています。

私はここ数年来、村の事業の丹波山金山の調査に参加しました。

その中でちょっと気になったのが、調査隊の方が来て、この山には金山があって、この川には砂金がいっぱいあるんですよ。これを何で観光スポットにしないのと言われているんですよ。

そしてこの間、新聞を見ましたら湯之奥金山で色々そういう砂金取りの名人をよんでイベントを行っているんですよ。

ただ、この村でそれをやりたいと思ってお聞きしましたら、この山の黒川金山、丹波山金山のこの河川の金に対する鉱区権というものがあるらしいんですよ。

その網がかぶさっていて、観光業者が砂金をとることができないですよ。

これを何とか解決してもらいたいですよ。お願いします。

#### [知事]

鉱業権があるということでしょうかね。

#### [参加者]

そうですね。

昔、私が子供の頃、もう30年や40年も前に河原で砂金を取った人がいたんですよ。

ね。

そういう関係の会社が存在しているらしいんですね。

金だけ持って行って、地元のために全然ならないというのは、これはどういうことかちょっと不愉快なんですけれどね。

この川では、うちの祖父が、昭和の頃まで砂金掘りして、明治5年に生まれて明治25年の20歳の時には金で家を造ったという話しが、実際あるんですよ。

一番大きい金は1匁あって、4グラムですか、親指の爪ぐらいあるって、そんな話を聞いたんですね。

うちにも道具もあるんですが、当時はその川は砂金掘りでいっぱい、この河原へ飴売りが来て商売になったというほど盛ったらしいんですね。

ですから、何とか鉱区権を撤去してもらって観光に生かしたらと思っているんです。

[知事]

ちょっとそれは調べてみましょうね。

やっぱりどこかの会社が鉱業権を依然として、実際には使っていないのに持っているということでしょうね。

[参加者]

そうですね。

[知事]

そうですね、分かりました。

それは初めて聞きました。村の方は何かご存知ですか。

どこかの会社が鉱業権を依然として持っているということですね。

[丹波山村総務課長]

調べてみますね。

[知事]

分からないですか。じゃあこれは調べてみますね。

[参加者]

教育委員会の詳しい者がいて、そして色々聞いたらまだ鉱区権が残っている。

ですから金を掘っても、それは権利を持っている人にやらなければだめだって、そんなことを聞きましたけれどもね。

これは大変な網がかぶっているな、丹波山はだめだなと思ってね。

宝の持ちぐされになるような気がして今お願いしたんですが、よろしくお願いします。

[知事]

戦前はそんなに大きい金の鉱石が採れたんですか。

[参加者]

採れたんですね。

この下の橋脚の工事の時にも少し、今残っているのは米粒ぐらいの感じのいくつかでしたね。

段々減ってきて・・・。

[知事]

そうですか、なるほどね。ちょっとその鉱区の話は調べてみましょう。

分かりました。。

[参加者]

小菅村のNPO法人に東京から来ました。

要望というよりもどういう活動をしているかということで、小菅村の方は大学との連携も含めてかなり若い人が来るようになっていきます。

実際に今日も何人か来ていまして、すごくいい村だと思って越してきた人も地元の方と協力してやっていますので、小菅村も丹波山村もがんばりを是非見ていただきたいなと思います。

実際に産業としては、ずっと脈々と続けている雑穀の方を、力を入れて観光の一つの形になるよう村の方と協力してやっております。

[知事]

NPO法人で、こちらの方にお住まいになって・・・

[参加者]

住んでいます、4年目ですね。

[知事]

東京の方は、もちろん会員が何人もおられるんでしょう。

[参加者]

東京の方から多摩川の源流ということで、大人にも子供にも来てもらって味わっていただいて、そのことが結局村の伝統的な文化や、あと技術などを、実際に村の若い人たちも少ないので、都心に住む人たちが継承していってくれる役割を果たすということでやっております。

[知事]

なるほどね。それはご苦労さんですね。

地域おこしというのは、その地域に住む人だけではなくて、よその地域からその地域に

来られた方が参加するのが非常に効果があって、というのはその地域の人にとっては、その地域のことが良く分からないわけですから、よその地域の人に来て始めて客観的にこの地域のことを評価してくれるわけですね。

そういう意味では、皆さんのような方がおいでになるということは大変貴重なことで、是非この地域の皆さんと一緒に村おこしをやっていただければ。

我々の方も最大限のことは応援をさせてもらいたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### [参加者]

小菅きらり有限責任事業組合で活動しています。

こちらにあるのが商品で、村の協力とかもあって9人ぐらいで小菅村の人たちと起業をしたんですが、これは「源流きらり」といって、環境浄化剤というものなんですね。

環境浄化剤だといまひとつまだ定着されていなくて、「一体何物かというのが分からない」と言われて、一応洗浄剤ということで登録をさせていただきました。

今洗浄剤と言っていますけど、今後は環境浄化剤という言葉で、是非この小菅村から発信したいなど。

なぜこの「源流きらり」と名称したかと言いますと、多摩川の、先ほども言っていましたけれども小菅村も丹波山村もそうだと思うんですが、多摩川の源流域なので、とにかくこれから環境の21世紀に向けてこの商品で川をきれいにしようと。

それで、循環型社会を取り戻せるアイテムだということで作らせてもらいました。

これの売り、なぜ小菅村から出すかという、小菅村の多摩川のおき水を使っているんですね。

あとは全て食品なんです。納豆とヨーグルトと、あとお饅頭とかパンを作るイースト、これに砂糖だけです。

何が言いたいかという、全て食品で発酵食品なんで、誤って、もし口に入れたとしても食品で作っているんで安全性が非常に高い。

微生物の力によってバクテリアとか、そういうものを食べていって来て、後にはきれいになるんです。

#### [知事]

そうすると洗浄剤と言っても、例えばお皿を洗うとか、そういうものじゃないんですね。

#### [参加者]

そうですね、どちらかという、油汚れには納豆菌がすごく分解力を出しまして洗い物が楽になります。

#### [知事]

そうすると、例えば石鹼のように洗えるんですか。

[参加者]

洗えます。

ただこれはあくまでも洗剤ではないので、あくまでも補助剤の形になります。

そして排水口から流れる時に化学的なものだと、どうしてもそれで微生物たちが動きをとめられてきれいにならない。

そうすると汚れが増えてくると。それで微生物たちをこれを使うことで活性化させて汚れを食べさせるということなんです。

この商品は、愛媛県の工業技術センターが開発してオープンソースなので、だれでも作れます。

[知事]

ちょっと酒の臭いがしますね。

[参加者]

そうですね。アルコールも2%ぐらい培養すると出てくるので。

[知事]

使い方はどういう使い方をするんですか。

[参加者]

使い方はとにかく台所、洗い物の後に排水溝に流すことですね。

あとは消臭効果がすごく高いんですね。だから生ごみとかトイレとか、そういう所にはそれをふってもらえると臭いは瞬時に消してくれます。

[知事]

これを使うといわゆる通常洗浄剤などはいらないということですか。

[参加者]

いらないというか補助剤ですね。

洗濯でも実際には化学的なものを使わなくても7割水で汚れというのは落とすので、それにこれを入れてもらって、あと気持ち洗剤を入れるとかという形で使ってもらえるというものです。

できれば、子供さんが学校で一緒に作ってみたり、学校教育で使って環境を身近に感じてもらえると嬉しいなと思って、一応小菅村の協力もいただいてやらせてもらっているんですが。

[知事]

今はこれをお作りになって市販はしているわけですね。

[参加者]

しています。  
小菅の湯の物産館で置かせてもらって。  
ただ先ほど言ったように認知や使い方がなかなか・・・。

[知事]

これだけですと分かりませんね。

[参加者]

分かりませんね。  
ホームページは一応立ち上げたんですが・・・。  
ただ、この前これを持って、新潟の被災地のトイレの水洗が使えなくなったような所にはボランティアとして行って、臭いを消すというような作業もさせてもらったんです。

[知事]

環境浄化剤と言うんですね。

[参加者]

そのせりふをちょっと広めたいなと思っているんですが、まあ気持ちを大きく多摩川源流から世界の海へというぐらい、ちょっと大きく

[知事]

洗ったり何かする時に一緒にこれを混ぜて流すと、あとあと環境が全体として浄化されるということですね。

[参加者]

あとは悪臭ですね。  
例えば養鶏場とか、今小菅村には養魚場が多いので、どうしても死んだ魚とかがすごく夏場臭うらしいんですが、これをかけてもらってとにかく臭いが消えた。  
今すごく喜ばれて、それで作業効率が上がったなんていうことで、何より訴えたいのはとにかく自分で作れるというか、食べ物なので、やり方一つで・・・。

[知事]

商品名は、「きらり」と言うんですか。

[参加者]

そうです。「源流きらり」です。

[知事]

これは愛媛県では使っているんですか。

### [参加者]

「愛媛アイ」としてもう動いています、向こうでは。

向こうでは大きな企業が「愛媛アイ」として中国や海外に輸出している企業もあります。

ただ愛媛県でそれを作られたので、愛媛以外の所では「愛媛アイ」という名称は使えないので、その開発者の方が小菅村に講演に来てくれて、是非発信するなら東京の流れ込む所の源流域から環境を訴えてくれと。

その話を聞いて、村の人達でこれを立ち上げたという形なんです。

ちょっと環境浄化剤というのを是非広めて、みんなが、「ああこれですね」というぐらいにしたいと思うんですがね。

### [知事]

最近では化学製品ではない、こういう自然物から作った、例えば木酢液、竹の竹酢液なんかそうですけれども、ああいう消毒液があったりとか、色々そういうものができてきましたね。

環境にやさしいあれですね。いや、大事なことですね。

どういう活用方法が考えられるのか、少し私どもの方も考えてみますね。

### [参加者]

「いもの会」では、知事がご覧になっているそのコロッケを作っています。

実は、それは捨てられていたジャガイモというとおかしいですが、こういう地域ですからコメが採れませんので、ここで一番たくさん採れる作物がジャガイモなんです。

それでこういう所ですから、昔は本当に主食に食べるといってもおかしくはなかったわけですが、家に病人がいたり、年寄りがいたりすると必然的にその次はということになりますと、その時には大変な量の賄いのもの、つまり他に色んなものがありませんからジャガイモをたくさん煮てにわかにお葬式をしたわけですね。

そういうふうに、病人やら年寄りがいると暗黙のうちにとこの家でもみんな「なんにもなきやいいな」と言いながら、ひと冬何事もないためにジャガイモを、いいところをみんな蓄えておいたんですね。

それを春になってしよい出して、あっちの藪にも、こっちの畑の隅にもたくさん捨ててあったんです。

そして、温泉ができました時に、私ども女も、何かやらなくちゃと立ち上がりましたが、結局、最初は60人もいたんですが段々段々少なくなりまして、最後に残ったのが12人でしたけれど何かやろうと。

その捨てられたジャガイモに目を付けまして、そして12人だれもができるものでないと困りますので、それでコロッケを作ることにしたんですが、お肉は全く入っておりません。

肉はこういう地域ですから手に入れるのも、最近では簡単ですが、もし何かあった時、ま



た手に入らない時ということで野菜のコロッケなんです。

全く何もありませんでしたけれども、たまたま村に廃業したキャンプ場がございまして、その時にちょうどそういう廃屋を使う事業がありまして、それに乗っかって施設を貸していただきました。

冷蔵庫と芋洗い機とガス台と調理台があったきりで、全く女の集まりで、子供たちの使ったものとか、100円ショップで買いすぎて隠しておいた物とか、そんなふうな物を持ち寄って仕事を始めましたけれども、お金がありませんので一人1万円ずつ資金を作りましてそれで始めました。

小一年掛かって本当に一生懸命やったんですけどなかなか売れなくて、まあまあそれでも最近は売れるようになりましてね、それと一緒にこのコロッケの儲けからお味噌を作ることも始めました。

お味噌はそちらの方にございますのがそうです。

古くから伝わるお味噌と、辛い唐辛子のお味噌もございます。

そんなわけで捨てていた物、そしてまた最近では農業グループの皆さんが生産したものを1年に1トン半ぐらいは買いあげて使うようになりましてし、そんなふうなことで、なかなか若い人が集まってはくれませんが、それでも少しずつお給料をいただきながら何とか皆さんに見ていただけるようになりまして。

そして一つお願いがございます。

方々に行ったら「丹波山村の味噌はうまい」、「丹波山村らのコロッケはうまい」と、是非これだけおっしゃって下さい。（笑い）

#### [知事]

分かりました。それはお約束できます。それはお金が掛かりません。口で言うだけだからね。

#### [参加者]

簡単なことです。ただそれだけ言って下されば結構です。

#### [参加者]

小金持グループでは今、ウメ漬けとラッキョウ漬けとお味噌とシャクシ菜をやっている、まだその他に、キャラブキとかミョウガができる時はミョウガもやっています。

#### [知事]

ここにキャラブキがあるじゃないですか、これはシャクシ菜ですか。

#### [参加者]

それはシャクシ菜なんです。それが甘漬けのウメなんです。

農家の人に、ラッキョウとかシャクシ菜を作っていて、それを私たちが買って、工房がありますからそこで加工して、温泉とか物産館とか、その他に狛江市のイベントな

どに行って販売しています。

[知事]

狛江市に販売場所はあるんですか。

[参加者]

いつでもあるということじゃないんですけど、お祭りとか盆踊りとか、そういう時に  
出させていただいています。

評判がいいです、とても。無農薬ですのでね。

お味噌の方も今すごく売れ行きがよくて・・・

がんばっていますのでよろしくお願いします。

[知事]

今何人ぐらいでおやりになっているんですか。

[参加者]

9人ぐらい居たんですが、今実際活動している人は7人ぐらいなんですよね。

[参加者]

そのシャクシ菜は、お年寄りの人達が、これから蒔くんですが、蒔いていただいて作っ  
て私たちに売って下さるんです。

ですからお年寄りが楽しみにしております。

[知事]

このシャクシ菜というのは何ですか、野沢菜みたいな菜ですか。

[参加者]

野沢菜とは違うんですが、学名「体菜（タイナ）」というんですよね。

[参加者]

形が杓子の形をしているんですよね。

白いところがおつゆを盛るしゃもじのようになっていて、葉っぱが白いご飯を盛る時使  
うような形になっています。

それで小菅村だとシャクシ菜で通っています。

[参加者]

私たちも地産地消をモットーにしているんですけども、地産だけはできるんですが地消  
がちよっとね。（笑い）難しいんです。

[知事]

そうですね、あんまりいっぺんには売れんでしょうね。それはそうでしょうね。  
やっぱり小菅の湯で売るんでしょう。  
どうですか、やっぱり売れ行きがよくて・・・。

[参加者]

シャクシ菜の方があまり売れ行きがよくないです。

[知事]

珍しいですからね、ちょっと何だろなという感じになっちゃうとね。

[参加者]

温泉でこのシャクシ菜を私たちが炒めて、それを温泉に納めてるんです。  
それを使っただいて、それは評判はいいんですよ。  
定食にいつも付けていただいて、それとキャラブキとかね。

[知事]

まあ野沢菜漬けみたいな感じなんですかね、これは。

[参加者]

そうですね。

[知事]

いずれもみんな無農薬というか、色んなもの使わないでやっておられるんですか。

[参加者]

そうです。無添加ですから安心して食べられます。

[参加者]

ウメもみんな農家の人から売っただいてるから、消毒はしてないですよ。  
だから虫が付いていますけれどもね。

[知事]

こういうものを何か販売していく販路があるといいですね。

[参加者]

最初、小金を貯めるべーかっていう、それを最初は目的で始めたんですよ。  
それが段々に小金持となって、もう大分大金持ちになりました。（笑い）  
最初は「小金を貯めるべー会」という会だったんですよ。

[知事]

年間どのぐらいの売れ行きになるんですか。

[参加者]

年間といっても、まだそんなに大きい話にはできないですよ。 (笑い)

[知事]

あまり大きくしないほうがいいわけだからね。  
うまいじゃないですか、小金持工房、名前がね。

[参加者]

すみません、これがおいしいと思うんですよ。  
小さいのを今日選んで持ってきましたので食べてみてください。  
(知事、関係者試食)

[知事]

お茶請けにいいですねこれは。  
こういうものは皆さん作って、例えばどこか塩山の辺りまでとか甲府までとか、持って  
いけば売れますかね。

[参加者]

甘梅は青梅で1回に50キロぐらいずつまとめて買って下さる所があるんです。

[知事]

それは送るんですか、それとも持って行くんですか。

[参加者]

持って行ったり、持ちに来ていただいたりしているんです。  
その人はひき売りの人で何か東京の方まで行くそうです。  
高級なお客さんを持っていて、ですから何か売れ行きが良かったってね。

[知事]

これは1週間に1回ぐらい作るんですか。

[参加者]

そうですね。

[知事]

それはいいですね。  
なるほど、これは奥さんたちが作った原価の何倍で売って儲かっていますよ。

東京に持って行って。（笑い）多分そうだと思いますよ。  
少し値上げをしておいたほうがいいかもしれませんね。

[参加者]

そうですね。

[参加者]

私たちは、百日紅さるすべりの木を植えて地域づくりをしている団体なんですけれども、19年目になります。

今日はそれとは関係ない事を質問したいと思うんですが、実は丹波山村で今、隣の甲州市と合併するというような話が進んでおります。

それで丹波山村もこういうふうに山が非常に広いんですが、東京都の水道局の水源林がほとんどなんですよ。

甲州市にもかなりの水源林があると聞いていますけど、合併すると自治体においては一番広い水源林面積を所有するようになると。隣の奥多摩町を抜く規模になるというような話を聞きます。

合併に対しましての知事さんのお考えをまず聞きたいということ。

それから、前にちょっと合併の資料を見せてもらったことがあるんですけれども、県が考えているのは、その先にもっと大きい枠組みの合併を考えているというような資料を見たことがあるんですが、今もそういうお考えで知事さんもいるのかどうかということをお聞きしたいと思います。

それからもう一つ、他の山梨県の市町村が合併が進みましたよね、でも、丹波山村と小菅村ができなかったのは何ととっても地理的な条件だと思うんですよ。

今、塩山が一番大きい町で近くても大体40分～50分掛かりますか。

ですから30分ぐらいで行けるようにならないと、合併しても非常に我々不便を感じるじゃないかというふうに思っております。

ですから合併するというのであれば、是非まあ30分ぐらいで行ける道路整備をお願いしたいと。

それからそれに関連して、前に大月に保健所があったんですけれども、今、確か富士吉田へ行っていると思うんですけれども、私、実は仕事が小売業をやっているものですから牛乳許可ですとか、魚の許可とか、そういうのが何年かに一辺更新手続きがありまして、今それをやっているんですけれども、県の方で考慮していただいて猿橋まで出張してきてくれて、そして更新手続きはこの間終わったんです。

そしてできたら、その更新した書類というのを郵送とか有料でもいいんですけど、書留か何かで送ってもらえるようなシステムにしていただければ、猿橋まで来ていただいてもやっぱり猿橋まで、私の運転だと1時間10分ぐらい掛かったんですよ。

それをまた2回行かなければならないということになると、なかなか大変な手間が掛かるものですから、それはやり方でできるような気がするので、早急にそちらの方はお願いしたいということと、その合併の知事さんのお考えを是非お聞かせ願いたいと思います。

## [知事]

猿橋まで出張して来て更新の手続きをして、あとその書類ができたならまた猿橋まで取りに行かなければいかんと。

別に日は決まっていないんですか。

それは、確かに郵送という手段があるわけですからね。

もうできたものはそれは送ってくれてもいいじゃないかというのはその通りですね。

これはちょっと保健所によく調べた上で、言っておきましょう。

合併は、基本的には市町村も財政が非常に厳しくなっている中で、長い目で見ると合併をさらに進めていかなければならないというのは、これはもう必然的な方向だろうと思うんですね。

国の総務省、昔の自治省ですが、そういう方向であるがために、こういう丹波山村や小菅村のような小さい村については、昔交付税でかなり優遇していましたが、そういう優遇制度をなくしてきましたからですね、特に丹波山村や小菅村というのは大変な訳ですよ、村の財政がですね。

そういうことも考えていくと、長い目で見るとやはり合併という方向に行かざるを得ない。

ただ合併をすることによるマイナスもありましてね、私、昨日も中道町、旧中道町の所に行きましたけれども、やっぱり合併したことに伴って今までであれば何かあればすぐ、ちょっと町長の所に行って来るといって町長の所に行って文句を言ったり何かして、そして分かった分かったみたいな話になるわけですが、今度は甲州市となれば市役所に行って市長の所に行くというのは、もう簡単にはいかないものですからね。

ちょっと行政との距離が遠くなるんですよ。

そういうマイナスもあるんですけどね。

しかし、長い目でいくとやっぱり合併という方向は避けられない方向だろうというふうに思うんですね。

それで、県としては強制は全くしておりません。

合併をしなければ何かマイナスがあるとか、県として何か県の行政でマイナスにするとか、そういうことは一切やっておりません。

それは、その地域の住んでいる皆さん方の判断に任せるといってしております。

ただ、10年とか、そのぐらいのレベルで見ていくと、やっぱりそういう方向になっていかざるを得ないというふうに思いますよね。

だからそういう前提で物事を考えていただいて、合併をしても色んなマイナスができるだけ生じないような方法はどうしたらいいか、そういうことをよく考えて、していただくということでしょうね。

一応、県としては県内を8とか10とか、そのぐらいの市にまとめるという構想はあります。

しかし、それは決して急ぐつもりもないし、長い方向としてそう示しているだけであって、決してそれを強制するようなつもりは全くない。

皆さんの判断で進めていただければいいと。

道路は確かにその通りで、整備はしていますけどね、かなり大きいお金を掛けて。

この柳沢峠を越えるような事業というのは、県内でも一番お金をかけている道路の一つなんですけど、しかしそれでも、なかなか塩山まで30分というのは難しいですかね、どうですか。

[参加者]

今造っている道が全部整備されれば可能だと思います。

[知事]

可能ですか、今造っているものがね。

[参加者]

全部完成すればね。

柳沢峠から向こうはほぼすぐにできそうですが、あと柳沢峠の下から、落合付近から丹波の間がちょっと溪谷が厳しい道なんですよね。

[知事]

この間大きく崩れた所があったけども、あそこをトンネルにしたりしていますが、土質が悪いから大変ですね。

小菅村の方は松姫トンネルを造ることになっていますからね、あれができれば大月の方には30分あれば行くだらうと思います。

まあいずれにしても30分ぐらいで、塩山なり大月へ行けるような方向で、整備はしたいと思います。

[参加者]

よろしくお願いします。

[参加者]

私たちは、直売グループで新鮮な野菜と無農薬に盛んに取り組んでおります。

多くの方たちに、喜んでもらえるということを願って販売しているのですが、その反面、私たちが困っていることがあります。

数年前より山の動物達に、毎年毎年というように色々荒らされておまして、いよいよ収穫時期ということになりますと、餌を求めて人家までやってくるものもいます。

また、猪とか、猿の大群には、収穫しようとする、もう2、3日前から猟友会さんたちにお願ひしまして、この辺で追い払ってもらおうなど、一時的なことをやっておりますが、それでも2、3日たてば舞い戻って来ます。

そしてこの山村は狭い所ではありますが、後継者不足ということが一番困っております。野菜作りをするには、若い人達が何とか一生懸命になってやっていただければと思いますが、今農業は遊休農地も多く、一時的には掘り起こして盛んに蕎麦とか、そういったもの

を作っておりましたが、この鹿とか猪、こういった動物にやられ始めました。

それで若い人たちはもう断念しているような状態で、何しろ困っておりますが、何か対策はないものかと思っております。

**[知事]**

猿と猪の食害ですよね。電気柵はやっているんですか。

**[参加者]**

防護柵はもう何年前に村で作っておりましたが、猿の大群とかは柵を乗り越えて、もう家のすぐそばに来ている。

**[知事]**

乗り越える。それは作り直さなければだめですね。

**[参加者]**

そういうのは電気じゃないですね。普通の鳥獣害防護柵ですね。

**[知事]**

電気柵は今補助はありますね。

**[農村振興課長]**

あります。やった所で電気柵も最初のうちはいいんですよ。

一度猿が触ると、気絶して落ちるぐらいの電気が流れますからいいんですが、それも3年ぐらいたちますと、どうしてもそれを猿が学習しまして乗り越えてしまって、なかなか猿に対してはこれは絶対だという抜本策がない状況で、今私どもかなり県内防護柵をやっておりますが、猿だけは非常に難しい状況です。

**[知事]**

南アルプスの方の猿が多いですよ。それでみんな困っている。

したがって管理捕獲を行うしかないでしょうということですがね。

**[森林整備課長]**

猿、猪、熊も含めて管理計画を定めたところです。

この食害というのは、ひとつの対策だけでなく色々な対策、頭数管理とか、あるいは農地の方で防ぐとか、あるいは山の方で見通しを良くして近づかないようにするとか、色々な対策をしなければならないと思いますので、これからも県としても農政部・森林環境部あるいはその他の関係するところを含めて、対策を良く考えていかなければならないと思います。



### [知事]

そうですね、分かりました。本当にご苦労のことはよく分かります。

### [参加者]

小菅村エコセラピー研究会では、森の癒しであるとか、滝であるとか、小菅村のあらゆるものを、都会生活で疲れた人たちに癒しを提供するという活動をしております。

今日お願いしたいと思いましたが、私もIターンで、もう25、6年になりますけれども、現在Iターンの人たちに村では住宅を安く供給するという事はなされていないんですが、残念ながら仕事がないんですね。

「小菅きらり」の方は、ご自分の力で仲間と一緒にですが起業をされましたけれども、そういった都会から来て小菅村で暮らしたいというような人たちに、暮らしが立つような支援が県の方で、もしできるのであればお願いしたいと思います。

都会から田舎暮らしをしたいという人が結構いるんですよ。

暮らしの術がないということで、その辺を県の方でも、これは小菅村だけでなく、この源流域でもそういう必要性が求められているんだろうと。

やっぱり源流域で人がたくさん集まらなければやっぱり源流は守れませんので、その辺のことをお願いしたいと思います。

### [知事]

二地域居住なんと言わずいぶん人気があることはあるんです。

山梨は割と東京に近いものですから。

みんなそういう期待は持つんですが、おっしゃるようになかなか今一つ踏み切れないのは、一つ仕事の問題がある。

なかなかそういう方々ですから、手に職を持った方が多いですよ。

そういう人にぴたっと合うような職場が提供できればね・・・

### [参加者]

そうですね。

だからその時にそういう所で暮らすんならば、もうこれ以上村に支援を求めるのは無理ですので、県の方でそういうふうな特別な支援ができるものが用意されれば、じゃあ例えばパン工房を小菅村でやってみようかとか、売りに行くのは自分の努力で何とでもできるんだと思うんですが・・・、県もお金のないことでしょうけれども。

何かこう、きっと無駄にならない支援になると思うんですよ。

### [知事]

何か商売を始められることについては、色んな補助制度もあることはありますけれども、あるいは融資になるかもしれませんが、そうですね、分かりました。

### [参加者]

現在、東京農業大学で小菅村で学生に対する体験学習を行っております、「多摩川源流大学」の事務局をしています。

皆さんのような小菅村でずっと住んでいる方に講師になっていただいて、食文化だとか、竹細工ですね、それを教えてもらいながら技を学ぶということをやっております。

また、それは学生に対するものなのですが、源流域で産業をちょっとやってみないかということで、今源流の木をということでプロジェクトが動き出したりとか、後は、遊休農地が小菅村でも増えてきまして、そこをどうにしかして学生の力をちょっと借りて、何かソバでもコンニャクでもまた植えて再生しようじゃないかという、そういうことも今企画しております。

都内にいる大学生というのは、なかなかそういう体験をすることができない。

意欲ある学生はできるんですが、大学側から提供する場所がないということがありまして、そういう学生の要望を実現する事を行っている「多摩川源流大学」というのがありますので、今後、是非広報関係で注目していただければ、今、色々な新聞、メディアとかには出ているんですが、皆さんのお力を是非いただければと思っております。

### [知事]

本当にご苦労さまな、私も聞いておりますけれども、大したもんだ。

やっぱり東京農業大学の目の付けどころの良さですね、感心したんですが、文部省も非常に評価して、文部省も助成金を出しているということみたいですがね。

大学生の若い力がこういう地域に来て、ともすれば活力が低下しがちな地域で、若いバイタリティーと知恵と汗で何かやっていただけるといのは、こんな心強いことはないですよ。

そういう意味で我々も非常に期待をし、注目しております。

県の方で何か応援できることがあれば・・・

### [参加者]

小菅村も丹波山村も源流ということで、どちらかと言えば東京都向きなんですよね。

そして我々が生きていくのは、何しろ先ほどから出ている、人が来なければだめだということで、そして一番問題なのは、この源流域と中流域の、あるいは下流域の住民と交流すると。これが一番だと思うんです。

それで是非、知事さんならできることとお願いするのは、東京都の知事さんと一杯呑むようなことがあったら、「おい丹波、小菅面白い所があるぞ」と。

「もう少し見てくれよ」というような、そういうことで是非お願いしたいなと思います。

### [知事]

分かりました。

東京都知事も奥多摩ぐらいまでは時々来るらしいんですよ、割と好きらしいんだね。そうですね。石原都知事にもよく話をしておきます、時々会いますものなのでね。

分かりました。

[参加者]

知事さんの方では、山梨再生に向けた「暫定版行動計画」というのを出されていますね。

この中で林業の振興の中に、神奈川県と協力して、桂川左岸側流域の水源環境保全整備、協議とか検討をされることになっています。

これを是非、丹波山村を含めた多摩川を是非この中に入れてほしいと。

今言われましたように、東京都とよく折衝できるように、これを是非暫定版が消える時には多摩川流域も含まれているような方向でお願いしたいと思います。

[知事]

そうですね。

東京都も交渉しなければいけません。神奈川県の場合には5年ぐらいですか、計画、あと共同調査をしましてね、将来的には費用負担、上流の水質浄化だとか、あるいは森林整備ですね、費用負担というようなことも考えているようですね。

東京の場合にはそこまではいっていないんですが、下水道の整備について東京都も相当な負担をして、維持管理費に負担はしてくれているわけですね。

だからある程度の負担はしているわけですが、もうちょっと負担をしてやってもいいんじゃないかと、森林を整備するについてはですね。

東京都はそれを言うと自分の所有林は自分で整備していると、こう言うのかもしれませんが、それはその通りだと思うんですね。

おっしゃるように桂川だけではなくて、多摩川についても進めていきたいと思います。

[参加者]

陶芸をやっています。

先ほどからやはり皆さんが言っているのは、こういった源流域の認知のされ方がやはりどうしても薄くて、こういったみんなそれぞれ色々なアイデアを出したり、色々な環境問題に関しても色々なことを個々ではやっているんですね。

それがやっぱり一緒になって、源流域のブランドとして首都圏に向かって、もう少しまとまった形で認知されていかないと、どうしてもそれが例えば県のその日本橋にあるそういったものとか、その個々にはあるんですが、それがみんな、全ての活動が一つの同じ方向の認知のされ方をするような、これは観光広報の方かも分からないんですが、その辺をもう少し山梨の山岳の地域活性みたいな部分で、もう少しまとまった認知の打ち出し方や、認知のされ方をしていく方向を、もう少し模索してもらいたいと思います。

[知事]

そうですね。

そのところは、色々今皆さんの話を聞きながら考えているんですが、やっぱりある程度安定的にこういうふうなものが小菅村とか丹波山村にあって、それが、都市部の消費者に結びつくネットワークを作らなければいけませんね。

例えば、いわゆるショッピングセンターみたいな所がいくつかありますが、ああいう所が一つコーナーでも作ってくれて、常時、今日は小菅村の日とか、今日は丹波山村の日とか、今日は早川町の日とか決まっていて、その決まった日はその村の人たちがわっとみんなを持って行ってそこで売ってもらうとか、そういうようなことをやったりとかやってくれるといいんですがね。

#### [参加者]

そういったことと、それから例えばフリーペーパーのような情報誌みたいなもので、きちっと定期的に打ち出していくとか、今までも色んな宣伝や広報はやっていると思うんです。

#### [知事]

なるほどね。フリーペーパーは、ふるさと回帰支援センターでやっていますね。しかしフリーペーパーもですが、やっぱりインターネットでしょうね。

どうですか。

#### [参加者]

インターネットも各自治体とか各団体とかでもやっていると思うんですが、どうしても個々だと弱いんですよ。

まとまったネットワークで打ち出さないといけないとやはり。

ネットワークを組んだりするのは、やはり我々のその問題かも分かりませんが、それをまとめていったり、県の方で持っているネットをもう少し使いやすくみんなに開放したりとか、そういうこともしていかなければだめですよ。

#### [司会]

県からリンクをしていますから、そういう所からできるようになっています。

#### [観光振興課長]

私どもの観光の「富士の国やまなし観光ネット」というのをやっていて、そのシステムの中で、地域の情報を情報ボランティアという方を今県下に50人ぐらいいるんですが、登録してもらって、例えばこの地域ではこういうお祭りをやりますとか、こういうものができましたとかという情報発信をトピックスしてもらおうというふうな仕組みもあります。

#### [参加者]

それは結構アクセスとかは多いんですか。

〔観光振興課長〕

月に70万～80万ページビューアーのアクセスがありまして、結構宣伝になりますので、是非ともその情報ボランティアに登録をしていただけると宣伝ができます。

〔知事〕

だれか委員代表を一人どこかに、あとで村の方に言ってもらって。  
そうすれば大丈夫です。じゃあ村の方で一つだれか相談してみてください。

〔参加者〕

いつもお医者や何かには東京都の方に行くんですけども、鴨沢橋を渡って向こう側はすごく道路が良くて、丹波に帰るとすごく道が悪くて、特に保之瀬の辺りには、身体がよじれるような具合になる場所があるんですよ。

国道（411号）になっているんだから、もう少し道路を整備していただきたいと思います。

〔知事〕

そういう所がありますか。分かりました。

〔司会〕

それでは今までのお話をまとめて、感想も含めて知事からお話をしていただきたいと思っています。

〔知事〕

色々なお話をたくさん戴きましてありがとうございました。

色んなこうやってご苦労して作られた製品の販路をどうするかとかですね、あるいは鹿や猪、猿の獣害の問題も大きな問題ですし、新しいこういう環境浄化剤のようなものをお作りになっている、そういうものをこれから大いにPRをしていきたいと、盛りだくさんにたくさんご意見を承りまして、一つ一つ本当に皆さん方がこの地域でご苦労なさっているその苦労のほどがよく分かりまして、大変に勉強になりました。

今日伺ったことで、できることはできるだけ実現をするように努力をしたいというふうに思っております。

これからもまた時々丹波山村、小菅村にはお伺いをして、皆さんとお話をする機会をできるだけ作りたと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

条件は確かに厳しい地域でありますけれども、こういう地域で清流を守っていただいている皆さん方には、これからも是非地域おこしのためにがんばっていただきたいと思えます。

今日は皆さんありがとうございました。